

NEJIREBANE, No. 126, 15. Dec. 2009

滋賀県におけるコメツキムシの採集記録  
The Records of Elaterid Beetles Collected in Shiga Prefecture, Japan  
By Masanori YAMAMOTO

山本雅則

〒521-1322 滋賀県安土町宮津 1-57

2009年(平成21年)に、コメツキムシ研究家の岸井尚博士(高槻市)に筆者が採集したコメツキムシ資料について同定をお願いしたところ、快くお引き受けいただいた。2月に2回にわたり送付した資料はほどなく4月中旬に、全てに同定ラベルを付された状態でリストとともに返送された。その卓越したスピードと全資料への同定ラベル添付という丁寧な対応に感謝の念に堪えなかった。これらの資料については、滋賀県初記録の15種が含まれるとのご教示もあり、公表についてお願いしたところ、筆者に委ねるとのことであり、ここに県内の報告が比較的少ないコメツキムシについて報告することとした。なお、滋賀県産以外の資料の公表については別の機会に譲りたい。

## 資料の状況

資料は、スーピングやルッキングで得られたものを中心とした70種582匹からなり、灯火やFIT(フライト・インターセプション・トラップ)で得られたものも含まれている。採集期間は1979年~2008年、採集場所は23市町50地点(市町村表示については採集当時のままで表記;市町村合併に伴い2004年10月1日に甲賀町が甲賀市、永源寺町が2005年2月11日に東近江市に変更)からのものである。採集者は2例を除くと全て筆者であり、その場合、採集者は省略している。なお、前記2例は寺本憲之さん(安土町)と山本昌男さん(大津市)の2氏から提供を受けたものであり、それらについては採集者を記した。

FITで得られた種数・個体数は、36種202匹と比較的多い。用いたFITの構造は簡易なもので、地面に縦21cm×横31cm×高さ5cmのプラスチックトレイを設置し、短辺の中央両側に立てた金杭

間に障壁用の透明ゴミ袋をターンクリップで固定したものである。トレイ内には水を張り、酢酸液(市販の写真用停止液)を添加した。回収時に適宜給水と酢酸液の補充を行った。FIT の設置場所と期間は、多賀町高室山 2003 年 3 月 30 日~2004 年 3 月 20 日、日野町綿向山 2004 年 8 月 11 日~2006 年 3 月 5 日、安土町衣笠 (=織;キガサ) 山 2004 年 4 月 2 日~2005 年 4 月 10 日、甲賀市岩尾山 2005 年 5 月 4 日~2006 年 3 月 5 日、東近江市紅葉尾町(スリホ) 2007 年 5 月 3 日~継続中の計 5 か所であり、いずれもほぼ 7 日毎に回収し、回収日を採集日とした。構造は不明だが、マレーゼトラップを用いた 50 種(同地域での記録種数 105 種)の記録が認められる(岸井, 2003a)。この場合と同様に比較的得られる種が多いことから、得られる種の偏りには注意が必要だが、コメツキムシ科の調査において有効な方法であると考えられる。

滋賀県では 2005 年(平成 17 年)に RDB リストとして、滋賀県生きもの総合調査委員会により「滋賀県で大切にすべき野生生物(滋賀県レッドデータブック 2005 年版, pp. 563)」が刊行されており、その後、県内のファウナ・フロラリストを作成するべく準備が進められている。なかでも昆虫類、特に鞘翅目は科・種数ともに膨大でその作成には時間と労力がかかると考えられており、それらの中で、分担を行い、各科についてまとめに向けた準備が始まっており、まとまった段階で順次公表を行うこととしている。

鞘翅目のコメツキムシは本邦ではおよそ 700 種弱 250 余亜種の記録がある。近府県では充実したリストや報告が作成されており、三重県では岸井(1997)により 170 種から 200 種近くに、和歌山県では岸井(1999)により 144 種から 200 種に達すると記されている。

滋賀県のコメツキムシの分布記録として、楠井(2000)が琵琶湖内の 2 島嶼(沖島・竹生島)から 4 種、岸井(2001a, b)が各 1 種(岸井(2001a)には岸井(1964)の石山寺での記録も併記)、岸井(2002)が 4 種、岸井(2003b)が 2 種、岸井(2004)が 3 種、岸井(2005)が 3 種、岸井(2006)が 5 種をそれぞれ記録している。本報告では、これらの記録のうち、アカアシアカコメツキ *Ampedus rufioes* (LEWIS, 1894) (楠井, 2000)、スズキシモフリコメツキ *Actenicerus suzukii* (MIWA, 1928) (岸井, 2001a)、クロツヤシモフリコメツキ *A. athoides* (KISHII, 1955) (岸井, 2002)、フトナガコメツキ *Penthelater robustus* (KISHII, 1966) (岸井, 2004)、コキマダラコメツキ *Gamepenthès ornatus* (LEWIS, 1894) (岸井, 2005)、タテスジカネコメツキ *Gambrinus vittatus* (CANDÈZE, 1873) とツヤケシミドリヒメコメツキ *Vuilletus peropacus* (NAKANE, 1959) (岸井, 2006) の 7 種は記録できなかった。

## 謝辞

標本提供者 2 氏にはここに記して謝辞としたい。同定については全て岸井尚博士にお願いしており、この同定により本報告が可能となったことを記して著者の深い感謝の意を表したい。番号の後ろの※印は、滋賀県初記録の種(計 15 種)である。

### オオコメツキ亜科 Pityobiinae ヒゲコメツキ族 Pectocerini

#### 1. ヒゲコメツキ *Pectocera hige hige* KISHII, 1993

安土町内野 2♂♂, 15. V. 1989, 永源寺町紅葉尾 1♀, 25. VII. 2008, 信楽町牧~田代 1♂, 15. I. 1989, 彦根市父鬼町 1♀, 17. VII. 1995.

### サビキコリ亜科 Agrypninae サビキコリ族 Agrypnini

#### 2. サビキコリ *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (MOTSCHULSKY, 1861)

浅井町北池 1♀(灯火), 6. IX. 1984, 寺本憲之採集, 安土町西の湖 1♀, 1. X. 2006, 近江八幡市佐波江 1♂, 27. IX. 2008, 八日市市糠塚 2♀♀, 21. V. 1990.

#### 3. ムナビロサビキコリ *A. (A.) cordicollis* (CANDÈZE, 1865)

甲賀町岩尾山 2♂♂ (FIT2-4), 26. VI. 2005, 1♂1♀ (FIT2-3), 3. VII. 2005, 1♂, 9. VII. 2005, 多





1



2



3

1. コガタノサビコメツキ 2. ヒラタクロコメツキ 3. フトツヤハダコメツキ

- 賀町高室山 1♂, 31. V. 1998, 1♀ (FIT4), 12. X. 2003, 余呉町尾羽梨 1♂, 13. VI. 1999, 尾羽梨  
 ~鷺見 1♀, 23. V. 1990, 田戸 1♂1♀, 23. V. 1999, 1♂, 25. V. 2002, 針川 1♂, 31. VII. 1988.  
 4. ホソサビキコリ *A. (Sabikikorius) fuliginosus* (CANDÈZE, 1865)  
 八日市市糠塚 1♀, 21. V. 1990.  
 5. ヒメサビキコリ *A. (Colaulon) scrofa scrofa* (CANDÈZE, 1873)  
 浅井町北池 1♀, 26. VII. 1986, 大津市坊村 7 exs. (河原石下), 13. V. 1979, 多賀町犬上川 5♂♂2  
 ♀♀, 3. V. 2003.

サビコメツキ族 Adelocerini

6. ※コガタノサビコメツキ *Lacon (Lacon) parallelus parallelus* (LEWIS, 1894) (写真1)  
 山東町清滝山 1♂, 6. IV. 2002.  
 7. ウバタマコメツキ *Cryptalaus berus* (CANDÈZE, 1865)  
 永源寺町紅葉尾 1♀, 4. VIII. 2007, 志賀町大物・大谷川 2♂♂4♀♀, 10. III. 1990, 高島町鶴川 1  
 ♀, 8. IV. 2001, 栗東町十九堂 1♂, 17. IV. 1995.

オオクシヒゲコメツキ族 Emirhipini

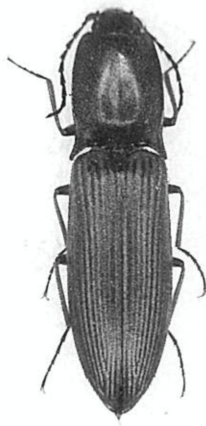
8. オオクシヒゲコメツキ *Tetrigus lewisi* CANDÈZE, 1873  
 甲賀町岩尾山 1♂ (FIT2-4), 7. VIII. 2005, 日野町綿向山 1♀ (FIT2), 17. VIII. 2004.

チビコメツキ族 Oophorini

9. マドラチビコメツキ *Prodrasterius agnatus* (CANDÈZE, 1873)  
 八日市市糠塚 1♂1♀, 16. V. 1990.

ヒサゴコメツキ亜科 Hypnoidinae ヒサゴコメツキ族 Hypnoidini

10. ※ヒラタクロコメツキ *Ascoliocerus saxatilis saxatilis* (LEWIS, 1894) (写真2)  
 永源寺町御池林道 2♀♀, 9. V. 1999, 多賀町犬上川 4♂♂1♀, 3. V. 2003, 権現谷 1♀, 9. V.  
 1999, 日野町綿向山 1♂, 20. VI. 1993.



4



5



6

4. アカハネフトヒラタコメツキ 5. ミヤマフトヒラタコメツキ 6. ウストラフコメツキ

カネコメツキ亜科 Dendrometrinae カネコメツキ族 Dendrometrini

11. ウスチャイロカネコメツキ *Nothodes marginicollis* (LEWIS, 1894)  
マキノ町辻 1♀, 25. IV. 2004.

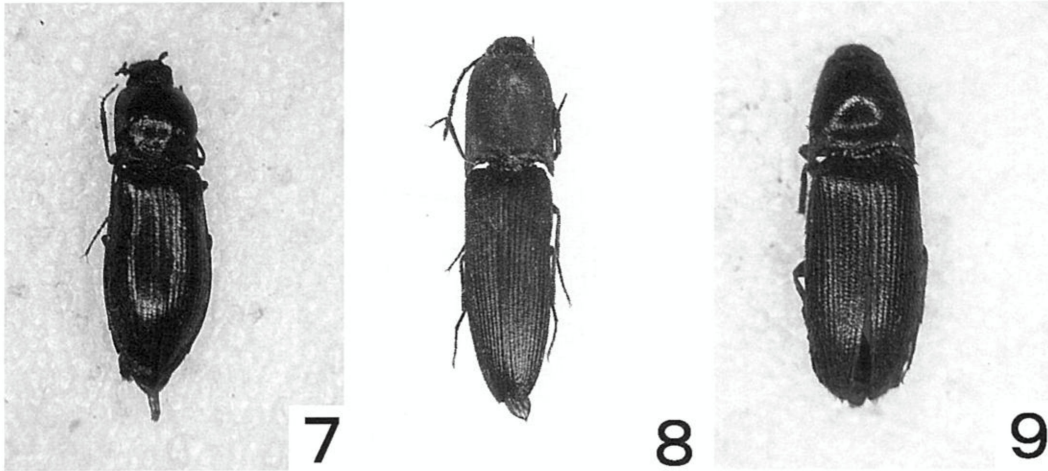
ツヤハダコメツキ族 Hemicrepidini

12. オオツヤハダコメツキ *Stenagostus umbratilis* (LEWIS, 1894)  
永源寺町紅葉尾 1♀ (FIT1), 9. VIII. 2008.
13. ※フトツヤハダコメツキ *Megathous suturalis* (CANDÈZE, 1873) (写真3)  
日野町綿向山 1♂ (FIT2), 20. VIII. 2005.
14. メダカツヤハダコメツキ *Medakathous jactatus jactatus* (LEWIS, 1894)  
安土町衣笠山 1♂ (FIT3), 3. VII. 2004, 1♀ (FIT4), 11. VII. 2004, 甲賀町岩尾山 1♀ (FIT2-1), 9.  
VII. 2005.
15. クロツヤハダコメツキ *Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus* (CANDÈZE, 1873)  
安土町衣笠山 3♂♂ (FIT1), 19. VI. 2004, 永源寺町紅葉尾 1♂ (FIT3), 15. VII. 2007, 1♂  
(FIT1), 28. VII. 2007, 1♂ (FIT2), 25. VII. 2008, 大津市桐生 1♂, 18. VI. 2000, 山本昌男, 甲賀  
町岩尾山 1♂ (FIT4), 3. VII. 2005, 多賀町高室山 2♂♂, 19. VII. 2003.
16. ヒメクロツヤハダコメツキ *H. (H.) desertor desertor* (CANDÈZE, 1873)  
安土町衣笠山 1♀ (FIT1), 3. VII. 2004, 多賀町高室山 1♂ (FIT1), 2. VIII. 2003.

ヒラタコメツキ族 Prosternini

17. ※アカハネフトヒラタコメツキ *Acteniceromorphus fulvipennis* (LEWIS, 1894) (写真4)  
多賀町高室山 1♀, 27. IV. 2002.
18. ※ミヤマフトヒラタコメツキ *A. kurofunei* (MIWA, 1934) (写真5)  
彦根市仏生寺町1♂, 29. V. 1999, 余呉町針川 1♀, 25. V. 2002.
19. ドウガネヒラタコメツキ *Corymbitodes gratus* (LEWIS, 1894)  
多賀町高室山 1♀, 27. IV. 2002, 余呉町針川 1♀, 25. V. 2002.
20. シモフリコメツキ *Actenicerus pruinosus* MOTSCHULSKY, 1861  
安土町衣笠山 1♀, 6. V. 2001, 多賀町高室山 1♂, 28. IV. 2000, 2♂♂3♀♀, 13. V. 2001, 杉1





7. シリプトヒラタコメツキ 8. ムネアカツヤケシコメツキ 9. クリイロニセコメツキ

- ♀, 4. V. 2000, 日野町綿向山 1♂3♀, 30. V. 1990, マキノ町石庭 1♂, 22. IV. 2000.
21. ヘリアカシモフリコメツキ *A. aerosus aerosus* (LEWIS, 1879)  
永源寺町杠葉尾 1♀, 19. V. 1991, 朽木村古屋 2♂♂, 10. IV. 2004, 日野町綿向山 1♀ (FIT1),  
28. V. 2005.
22. ダイミョウヒラタコメツキ *Anostirus (Ipostirus) daimio* (LEWIS, 1894)  
余呉町田戸 1♀, 12. V. 2002.
23. アカヒゲヒラタコメツキ *Neopristilophus serrifer serrifer* (CANDÈZE, 1873)  
永源寺町相谷 1♂, 1. VI. 2008, 1♂ (FIT1), 30. VI. 2007, 1♂ (FIT3), 7. VII. 2007, 甲賀町岩尾  
山 1♂ (FIT2-1), 12. VI. 2005, 日野町綿向山 1♂ (FIT1), 4. VI. 2005.
24. ※ウストラフコメツキ *Selatosomus (Pristilophus) vagepictus* (LEWIS, 1894) (写真6)  
永源寺町杠葉尾 1♂ (FIT3), 19. V. 2007.
25. ※シリプトヒラタコメツキ *S. (Eanoides) puerilis* (CANDÈZE, 1873) (写真7)  
甲賀町岩尾山 1♀ (FIT2-4), 19. VI. 2005.

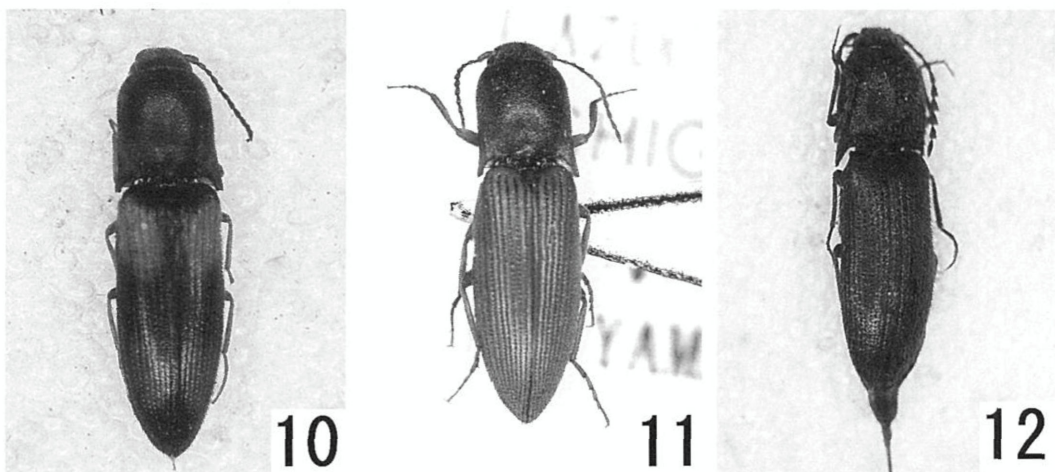
#### ベニコメツキ族 Denticollini

26. ミヤマベニコメツキ *Denticollis miniatus* (CANDÈZE, 1885)  
永源寺町杠葉尾 1♂, 19. V. 1991, 日野町綿向山 1♂1♀, 13. VI. 1987, 2♂♂3♀♀, 30. V.  
1990, 余呉町田戸 1♂1♀, 22. V. 1999, 針川 1♀, 25. V. 2002.
27. ベニコメツキ *D. nipponensis nipponensis* OHIRA, 1973  
永源寺町杠葉尾 1♂ (FIT4), 26. V. 2007, 1♀, 2. VI. 2007, 1♀ (FIT2), 14. VI. 2008, 大津市坊  
村 1♀ (飛翔中), 13. V. 1979, 甲賀町岩尾山 1♀, 14. V. 2005, 日野町竜王山 1♀, 4. V. 1998,  
余呉町尾羽梨～鷺見 1♀, 23. V. 1990, 針川 1♀, 25. V. 2002.

#### コメツキ亜科 Elaterinae ツヤケシコメツキ族 Megapenthini

28. ※ムネアカツヤケシコメツキ *Megapenthes opacus* CANDÈZE, 1873 (写真8)  
余呉町尾羽梨 1♀, 28. VI. 1987.

#### コメツキ亜科 Elaterinae コメツキムシ族 Ampedini



10. ヨツキボシコメツキ 11. チャイロムナボソコメツキ 12. コヒゲナガコメツキ

29. チャイロコメツキ *Haterumelater bicarinatus bicarinatus* (CANDÈZE, 1873)  
 安土町衣笠山 1♀ (FIT2), 8. VIII. 2004, 甲賀町岩尾山 1♂ (FIT2-3), 7. VIII. 2005, 1♀ (FIT2-4), 7. VIII. 2005.
30. ヒメクロコメツキ *Ampedus (Miwaelater) carbunculus* (LEWIS, 1879)  
 永源寺町枉葉尾 2♀♀, 5. V. 1988, 1♀ (FIT2), 19. V. 2007, 1♀, 23. VI. 2007, 1♀ (FIT3), 30. VI. 2007, 1♂1♀, 28. VI. 2008, 1♀ (FIT4), 12. VII. 2008, 多賀町杉 1♂, 13. V. 2001, 西浅井町山中 1♀, 5. VI. 1988, 山中牧場 1♂2♀♀, 11. VI. 1988, 彦根市仏生寺町 1♂3♀♀, 29. V. 1999, マキノ町河内 1♀, 16. VII. 2000, 辻 4♀♀, 29. IV. 2003, 余呉町尾羽梨 1♀, 13. VI. 1999, 田戸 1♀, 22. V. 1999, 針川 1♀, 25. V. 2002.
31. アカハラクロコメツキ *A. (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (CANDÈZE, 1873)  
 安土町衣笠山 1♀ (FIT4), 24. IV. 2004, 安土町衣笠山 1♀ (FIT2), 15. V. 2004, 1♀, 28. V. 2004, 永源寺町枉葉尾 2♂♂, 12. V. 2007, 1♀, 2. VI. 2007, 1♀, 22. VI. 2008, 2♀♀, 28. VI. 2008, 大津市山中 3♂♂3♀♀, 14. IV. 2002, 甲賀町岩尾山 1♀ (FIT2), 5. V. 2005, 2♀♀, 12. VI. 2005, 1♀ (FIT2-1), 12. VI. 2005, 3♀♀, 19. VI. 2005, 1♀ (FIT2-4), 19. VI. 2005, 山東町清滝山 3♂♂4♀♀, 6. IV. 2002, 1♂2♀♀, 13. IV. 2002, 高島町鶴川 5♂♂1♀, 8. IV. 2001, 多賀町高室山 1♂, 13. V. 2001, 1♀ (FIT4), 1. VI. 2003, 2♀♀, 15. VI. 2003, 彦根市荒神山 1♀, 18. V. 1986, 中山町 1♂, 29. IV. 2000, 日野町竜王山 2♂♂, 15. IV. 1994, 綿向山 1♀ (FIT3), 14. V. 2005, 1♀ (FIT2), 28. V. 2005, 1♀, 28. V. 2005, 1♂, 12. VI. 2005, 1♀ (FIT1), 19. VI. 2005, 1♀, 19. VI. 2005, 2♀♀, 26. VI. 2005, 1♀, 3. VII. 2005, 竜王山 1♀, 21. V. 2005, 余呉町尾羽梨 1♂, 13. VI. 1999.
32. ケブカクロコメツキ *A. (A.) aureovestitus aureovestitus* KISHII, 1996  
 永源寺町枉葉尾 1♀, 3. VII. 2004, 永源寺町枉葉尾 1♀ (FIT1), 9. VI. 2007.
33. ホソクロコメツキ *A. (A.) tenuistriatus* (LEWIS, 1894)  
 朽木村能家 1♂, 5. V. 2000, 多賀町杉~高室山 1♂, 28. IV. 2000, 日野町綿向山 1♀, 13. VI. 1987, 1♀, 31. V. 1993.
34. アカアシクロコメツキ *A. (A.) japonicus japonicus* SILFVERBERG, 1977  
 永源寺町枉葉尾 1♀ (FIT1), 26. V. 2007, 1♀ (FIT4), 2. VI. 2007, 1♀, 1. VI. 2008, 多賀町高室山 1♂ (FIT2), 19. IV. 2003, 1♂, 24. V. 2003, 1♀ (FIT1), 7. VI. 2003, 1♀ (FIT4), 15. VI. 2003, 彦根市仏生寺町 1♀, 29. V. 1999, 日野町綿向山 1♂1♀, 16. IV. 1988, 1♀ (FIT2), 26.





13



14



15

13. ヒメクシコメツキ 14. ハネナガオオクシコメツキ 15. オオハナコメツキ

VI. 2005, マキノ町辻 1♀, 29. IV. 2003.

35. タンバコクロコメツキ *A. (A.) tamba* KISHII, 1976

永源寺町杠葉尾 1♀ (FIT4), 19. V. 2007, 1♀ (FIT3), 9. VI. 2007.

36. オオアカコメツキ *A. (A.) optabilis optabilis* (LEWIS, 1894)

永源寺町杠葉尾 1♀, 19. V. 1991, 1♀ (FIT4), 2. VI. 2007.

37. アカコメツキ *A. (A.) orientalis* (LEWIS, 1894)

永源寺町相谷 1♀, 17. V. 2008, 杠葉尾 2♀♀, 4. VI. 1988, 1♀, 16. I. 1994, 日野町綿向山 1♀ (FIT4), 28. V. 2005.

#### ニセコメツキ族 Physorhinini

38. ※クリイロニセコメツキ *Podeonius aquilis aquilis* (CANDÈZE, 1873) (写真 9)

甲賀町岩尾山 1♂ (FIT2-3), 26. VII. 2005, 2♂♂1♀ (FIT2-2), 7. VIII. 2005, 日野町綿向山 1♀ (FIT2), 11. X I. 2004, 1♀ (FIT3), 20. VIII. 2005.

#### カバイロコメツキ族 Agriotini

39. ※ヨツキボシコメツキ *Ectinoides insignitus insignitus* (LEWIS, 1894) (写真 10)

余呉町針川 1♀, 25. V. 2002.

40. キアシクロムナボソコメツキ *Ectinus insidiosus* (LEWIS, 1894)

多賀町高室山 1♀, 5. VII. 2003.

41. カバイロコメツキ *E. sericeus sericeus* (CANDÈZE, 1878)

朽木村麻生 1♀, 2. V. 2004, 甲賀町岩尾山 1♂ (FIT2-3), 3. VII. 2005, 山東町清滝山 1♂, 6. IV. 2002, 多賀町高室山 1♂, 13. V. 2001, 1♂ (FIT4), 19. IV. 2003, 1♀, 24. V. 2003, 1♂, 7. VI. 2003, 1♀, 15. VI. 2003, 日野町竜王山 1♂, 30. IV. 1999, 綿向山 2♀♀, 25. IV. 1999, 1♀ (FIT4), 1. V. 2005, 1♀ (FIT1), 3. VII. 2005.

42. ※チャイロムナボソコメツキ *Agriotes subvittatus ograе* LEWIS, 1894 (写真 11)

安土町大中 1♂ (灯火), 15. VIII. 2000.

43. ヒメカバイロコメツキ *A. elegantulus* (LEWIS, 1894)

浅井町金糞岳鳥越峠 3♂♂3♀♀, 3. VIII. 2002.



## オオナガコメツキ族 Elaterini

44. ヒゲナガコメツキ *Mulsanteus junior junior* (CANDÈZE, 1873)  
 永源寺町杠葉尾 1♂ (FIT1), 9. VI. 2007, 1♂ (FIT3), 9. VI. 2007, 1♀ (FIT4), 28. VII. 2007, 1♀, 22. VI. 2008, 甲賀町岩尾山 1♀ (FIT2-1), 19. VI. 2005, 多賀町高室山 1♀ (FIT2), 12. VII. 2003, 日野町綿向山 1♀, 26. VI. 2005, 7♂♂ (FIT2), 3. VII. 2005.
45. ※コヒゲナガコメツキ *M. linteatus* (CANDÈZE, 1873) (写真 12)  
 永源寺町杠葉尾 1♀ (FIT2), 26. VIII. 2007, 1♂ (FIT3), 9. VIII. 2008.
46. オオナガコメツキ *Nipponoelater sieboldi sieboldi* (CANDÈZE, 1873)  
 永源寺町澁子 1♀, 25. VIII. 1991, 高野 1♀, 2. VIII. 2008, 杠葉尾 1♀ (FIT2), 18. VIII. 2007, 1♀ (FIT4), 18. VIII. 2007, 1♀ (FIT3), 26. VIII. 2007, 甲賀町岩尾山 1♂ (FIT2-2), 26. VII. 2005, 1♀, 26. VII. 2005, 1♀ (FIT2-3), 31. VII. 2005, 2♀♀ (FIT2), 7. VIII. 2005, 1♀, 7. VIII. 2005, 1♀ (FIT2-4), 26. VII. 2005, 1♀ (FIT2-1), 14. VIII. 2005, 1♂2♀♀, 20. VIII. 2005, 日野町綿向山 1♂, 2. VIII. 2004, 1♂ (FIT1), 14. VIII. 2004, 1♂ (FIT2), 22. VIII. 2004, 1♂, 26. VII. 2005, 1♂, 7. VIII. 2005, 1♂1♀ (FIT4), 7. VIII. 2005, 4♂♂, 14. VIII. 2005, 8♂♂3♀♀, 20. VIII. 2005, 1♀, 27. VIII. 2005.
47. ミドリヒメコメツキ *Vuilletus viridis* (LEWIS, 1894)  
 愛東町稲荷村 1♂, 5. VI. 1991, 永源寺町杠葉尾 1♀, 5. V. 1988.
48. オオミドリヒメコメツキ *V. crebrepunctatus* (NAKANE, 1959)  
 愛東町稲荷村 2♀♀, 5. VI. 1991, 永源寺町杠葉尾 1♀, 5. V. 1988, 大津市坊村 1♀ (葉上), 13. V. 1979, 朽木村能家 1♀, 5. V. 2000, 高島町黒谷 2♂♂1♀, 22. V. 1999, 余呉町田戸 1♀, 22. V. 1999.
49. キバネホソコメツキ *Dolerosomus gracilis* (CANDÈZE, 1873)  
 安土町衣笠山 3♂♂ (FIT4), 17. IV. 2004, 1♂ (FIT3), 24. IV. 2004, 1♂, 4. V. 2007, 伊吹町国見峠 1♀, 5. V. 2003, 永源寺町杠葉尾 2♂♂ (FIT2), 12. V. 2007, 1♂ (FIT3), 12. V. 2007, 2♂♂ (FIT4), 12. V. 2007, 1♀, 26. V. 2007, 3♂♂1♀, 4. V. 2008, 甲賀町岩尾山 2♂♂1♀, 4. V. 2005, 1♂ (FIT3), 21. V. 2005, 1♂ (FIT2-2), 12. VI. 2005, 高島町黒谷 4♀♀, 22. V. 1999, 多賀町高室山 1♂ (FIT2), 27. IV. 2003, 1♂1♀ (FIT3), 3. V. 2003, 3♂♂ (FIT4), 3. V. 2003, 2♂♂, 11. V. 2003, 1♂ (FIT1), 24. V. 2003, 1♂, 1. VI. 2003, 2♀♀, 7. VI. 2003, 1♀, 15. VI. 2003, 西浅井町山中牧場 1♀, 11. VI. 1988, 彦根市仏生寺町 1♀, 9. V. 1999, 1♀, 29. V. 1999, 日野町綿向山 1♂ (FIT4), 24. IV. 2005, 1♂ (FIT2), 1. V. 2005, マキノ町辻 1♂7♀♀, 29. IV. 2000, 2♀♀, 29. IV. 2003, 余呉町田戸 1♀, 22. V. 1999.

## クシコメツキ亜科 Melanotinae

50. クロツヤクシコメツキ *Melanotus annosus* CANDÈZE, 1865  
 余呉町田戸 1♀, 22. V. 1999.
51. ヒラタクロクシコメツキ *M. correctus* CANDÈZE, 1865  
 安土町衣笠山 1♂, 4. V. 2007, 永源寺町杠葉尾 1♂, 4. VI. 1988, 1♂ (FIT1), 7. VI. 2007, 1♂ (FIT2), 16. VI. 2007, 1♂, 23. VI. 2007, 3♂♂ (FIT3), 23. VI. 2007, 1♂ (FIT4), 23. VI. 2007, 1♂, 30. VI. 2007, 2♂♂, 14. VI. 2008, 1♀, 22. VI. 2008, 多賀町高室山 1♂ (FIT3), 1. VI. 2003, 1♂, 7. VI. 2003, 4♂♂ (FIT4), 7. VI. 2003, 1♂, 15. VI. 2003, 1♂, 21. VI. 2003, 日野町綿向山 1♂ (FIT1), 8. V. 2005, 12♂♂ (FIT2), 21. V. 2005, 2♂♂, 28. V. 2005, 1♂, 3. VII. 2005, 1♂, 9. VII. 2005, 1♀, 3. VIII. 2005, 余呉町針川 1♂, 25. V. 2002.
52. ルイスクシコメツキ *M. lewisi lewisi* SCHENKLING, 1927  
 永源寺町杠葉尾 1♀, 1. IX. 2003, 1♀ (FIT3), 9. VIII. 2008, 多賀町高室山~河内 1♀, 2. VII.

2000.

53. クシコメツキ *M. legatus legatus* CANDÈZE, 1860

永源寺町杠葉尾 2♂♂ (FIT1), 23. VI. 2007, 3♂♂ (FIT2), 23. VI. 2007, 2♂♂ (FIT3), 23. VI. 2007, 5♂♂ (FIT4), 23. VI. 2007, 4♂♂, 30. VI. 2007, 6♂♂1♀, 22. VI. 2008, 甲賀町岩尾山 2♂♂ (FIT2-1), 19. VI. 2005, 1♂ (FIT3), 19. VI. 2005, 6♂♂ (FIT2-4), 19. VI. 2005, 2♂♂, 26. VI. 2005, 1♂1♀, 3. VII. 2005, 多賀町高室山 1♂ (FIT2), 21. VI. 2003, 1♂, 29. VI. 2003, 日野町綿向山 1♂ (FIT2), 19. VI. 2005, 3♂♂ (FIT3), 19. VI. 2005, 5♂♂, 26. VI. 2005, 4♂♂ (FIT1), 3. VII. 2005, 1♂ (FIT4), 3. VII. 2005.

滋賀県安土町大中の水田地帯 (1989~1992年の4年間) において、糖蜜 (酒生粕+黒砂糖+酢+水) を用いたトラップにより、本種は5月2日~7月24日に誘殺されており、50%誘殺日は6月初中旬であると述べている (山本・小嶋, 1993). 本報告のデータでは、6月10日~7月3日の間に採集 (大部分がFITによるもの) されており、糖蜜を誘因源とするトラップとほぼ同時期に誘殺された。

54. ※ヒメクシコメツキ *M. legatoides* KISHII, 1975 (写真13)

永源寺町杠葉尾 1♀ (FIT3), 12. VIII. 2007, 1♀ (FIT4), 18. VIII. 2007, 1♀ (FIT1), 28. VI. 2008, 1♂, 28. VI. 2008, 1♀, 25. VII. 2008, 1♀, 25. VII. 2008, 1♀, 9. VIII. 2008, 1♀, 15. VIII. 2008, 大津市桐生 1♀, 19. VI. 2003, 山本昌男採集, 甲賀町岩尾山 1♀ (FIT2-1), 12. VI. 2005, 4♂♂ (FIT2-2), 12. VI. 2005, 2♂♂, 19. VI. 2005, 1♀ (FIT2-3), 3. VII. 2005, 多賀町高室山 1♀ (FIT2), 10. VIII. 2003, 1♀ (FIT3), 6. IX. 2003, 1♀, 13. IX. 2003, 日野町竜王山 1♂, 4. V. 1998, 綿向山 1♀ (FIT2), 26. VI. 2005, 1♀ (FIT3), 3. VII. 2005, 余呉町下丹生 1♀, 11. VI. 1988.

55. ナガチャクシコメツキ *M. spermendus spermendus* CANDÈZE, 1873

日野町綿向山 1♂ (FIT2), 28. V. 2005.

56. コガタクシコメツキ *M. erythropygus erythropygus* CANDÈZE, 1873

安土町衣笠山 1♂, 4. V. 2007, 永源寺町相谷 2♂♂, 17. V. 2008, 杠葉尾 1♂ (FIT1), 2. VI. 2007, 1♂, 4. V. 2008, 3♂♂, 23. V. 2008, 2♂♂, 1. VI. 2008, 多賀町高室山 4♂♂ (FIT3), 2. V. 2003, 6♂♂ (FIT4), 24. V. 2003, 5♂♂, 1. VI. 2003, 3♂♂, 7. VI. 2003, 2♂♂1♀, 15. VI. 2003, 1♀, 21. VI. 2003, 日野町綿向山 1♂, 13. VI. 1987, 1♂ (FIT3), 4. VI. 2005.

57. ヒラタクシコメツキ *S. phenicosomus koikei* (KISHII et OHIRA, 1956)

永源寺町杠葉尾 1♀ (FIT3), 19. VII. 2008, 甲賀町岩尾山 1♂ (FIT2-3), 12. VI. 2005, 1♀ (FIT2-1), 3. VII. 2005, 多賀町高室山 2♂♂, 31. V. 1998, 1♀ (FIT3), 24. V. 2003, 2♀♀, 29. VI. 2003, 1♀ (FIT2), 5. VII. 2003, 1♀, 27. VII. 2003, 日野町綿向山 1♀ (FIT3), 4. VI. 2005, 1♀ (FIT1), 26. VI. 2005, 1♀ (FIT2), 3. VIII. 2005, 余呉町尾羽梨 1♀, 13. VI. 1999.

58. ※ハネナガオクシコメツキ *S. japonicus* (OHIRA, 1974) (写真14)

多賀町高室山 1♂, 15. VI. 2003.

59. アカアシオクシコメツキ *S. cete cete* (CANDÈZE, 1860)

多賀町高室山 1♂ (FIT1), 24. V. 2003, 八日市市糠塚 1♂, 16. V. 1990.

ミズギワコメツキ亜科 *Negastrinae*60. ヨツモンミズギワコメツキ *Fleutiauxellus (Neomigiwa) quadrillum* (CANDÈZE, 1873)

安土町大中 1♂, 22. VI. 1988.

61. ミズギワコメツキ *F. (Migiwa) curatus curatus* (CANDÈZE, 1873)

余呉町針川 2♂♂2♀♀, 31. VII. 1988.

62. シラケチビミズギワコメツキ *Zorochros (Yamatostrius) albipilis* (CANDÈZE, 1873)

近江八幡市佐波江 2 exs., 29. IV. 2004.

63. ヘリマメコメツキ *Yukoana elliptica* (CANDÈZE, 1873)



- 永源寺町紅葉尾 1 ex., 4. VI. 1988, 多賀町高室山 1 ♀ (FIT2), 24. V. 2003.  
 ハナコメツキ亜科 *Cardiophorinae* ハナコメツキ族 *Cardiophorini*
64. ※オオハナコメツキ *Dicronychus nothus* (CANDÈZE, 1865) (写真 15)  
 大津市坊村 1 ♂ 1 ♀, 13. V. 1979.
65. アカアシハナコメツキ *Displatynychus adjutor* (CANDÈZE, 1873)  
 永源寺町紅葉尾 1 ♀, 26. VIII. 2007.
66. クロハナコメツキ *Cardiophorus pinguis* LEWIS, 1894  
 西浅井町山中牧場 2 ♀ ♀, 11. VI. 1988.
67. ホソハナコメツキ *C. niponicus* LEWIS, 1894  
 甲賀町岩尾山 1 ♀ (FIT2-2), 12. VI. 2005.
68. クロコハナコメツキ *Paracardiophorus opacus* (LEWIS, 1984)  
 今津町今津浜 1 ♂, 17. X. 2004.
69. コハナコメツキ *P. pullatus pullatus* (CANDÈZE, 1873)  
 近江八幡市佐波江 2 exs., 29. IV. 2004.
70. アカアシコハナコメツキ *P. sequens sequens* (CANDÈZE, 1873)  
 近江八幡市佐波江 2 exs., 29. IV. 2004, 能登川町大中 1 ex., 27. II. 2005.

#### 【滋賀県初記録種】

- 写真 1. コガタノサビコメツキ *Lacon (Lacon) parallelus parallelus* (LEWIS, 1894) 山東町清滝山 1 ♂
- 写真 2. ヒラタクロコメツキ *Ascoliocerus saxatilis saxatilis* (LEWIS, 1894) 多賀町権現谷 1 ♀
- 写真 3. フトツヤハダコメツキ *Megathous suturalis* (CANDÈZE, 1873) 日野町綿向山 1 ♂
- 写真 4. アカハネフトヒラタコメツキ *Acteniceromorphus fulvipennis* (LEWIS, 1894) 多賀町高室山 1 ♀
- 写真 5. ミヤマフトヒラタコメツキ *A. kurofunei* (MIWA, 1934) 彦根市仏生寺町 1 ♂
- 写真 6. ウストラフコメツキ *Selatosomus (Pristilophus) vagepictus* (LEWIS, 1894) 永源寺町紅葉尾 1 ♂
- 写真 7. シリプトヒラタコメツキ *S. (Eanooides) puerilis* (CANDÈZE, 1873) 甲賀町岩尾山 1 ♀
- 写真 8. ムネアカツヤケシコメツキ *Megapenthes opacus* CANDÈZE, 1873 余呉町尾羽梨 1 ♀
- 写真 9. クリイロニセコメツキ *Podeonius aquilis aquilis* (CANDÈZE, 1873) 甲賀町岩尾山 1 ♂
- 写真 10. ヨツキボシコメツキ *Ectinooides insignitus insignitus* (LEWIS, 1894) 余呉町針川 1 ♀
- 写真 11. チャイロムナボソコメツキ *Agriotes subvittatus ograе* LEWIS, 1894 安土町大中 1 ♂
- 写真 12. コヒゲナガコメツキ *Melanotus linteatus* (CANDÈZE, 1873) 永源寺町紅葉尾 1 ♀
- 写真 13. ヒメクシコメツキ *M. legatoides* KISHII, 1975 永源寺町紅葉尾 1 ♀
- 写真 14. ハネナガオオクシコメツキ *Spheniscosomus japonicus* (OHIRA, 1974) 多賀町高室山 1 ♂
- 写真 15. オオハナコメツキ *Dicronychus nothus* (CANDÈZE, 1865) 大津市坊村 1 ♂

#### <参考文献>

- 岸井 尚 1997. 三重県産コメツキムシの記録 (1). *Nejirebane*, Osaka, 77: 1-4.
- 岸井 尚 1999. 和歌山県産コメツキムシの記録. *Nejirebane*, Osaka, 83: 1-10.
- 岸井 尚 2001a. 三重県産コメツキムシの記録 (7) 乙部宏氏の蒐集資料について. *Nejirebane*, Osaka, 94: 9-12.
- 岸井 尚 2001b. 八木正道氏蒐集のコメツキムシについて. *Nejirebane*, Osaka, 96: 9-14.
- 岸井 尚 2002. 田中勇氏蒐集のコメツキムシについて. *Nejirebane*, Osaka, 100: 1-11.



- 岸井 尚 2003a. マレーゼトラップによる大澤正嗣氏蒐集の秩父山塊産コメツキムシ. *Nejirebane, Osaka*, 105: 1-15.  
岸井 尚 2003b. 森正人氏蒐集のコメツキムシ. *Nejirebane, Osaka*, 107: 1-10.  
岸井 尚 2004. 八木正道氏蒐集のコメツキムシ 続報 (1). *Nejirebane, Osaka*, 111: 1-7.  
岸井 尚 2005. 三木三徳氏蒐集のコメツキムシ. *Nejirebane, Osaka*, 112: 4-8.  
岸井 尚 2006. 細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ. *地域甲虫自然史*, 2: 1-90.  
河上康子 1998. 大阪湾沿岸地域におけるコメツキムシの記録. *Nejirebane, Osaka*, 80: 10.  
楠井善久 2000. 琵琶湖の沖島と竹生島のコメツキムシの記録. *Nejirebane, Osaka*, 89: 11.  
OHIRA, H. 1995. New or little known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XI. *Elytra*, 27 (2): 409-416.  
大平仁夫 1990. ウバタマコメツキ属と近縁属について. *月刊むし*, (234): 19-21.  
山本雅則・小嶋俊彦 1993. 糖蜜トラップによるクシコメツキ成虫の誘殺消長. *中国昆虫*, 7: 25-27.

## 2008年度におけるヤシャゲンゴロウの生息状況について

保科英人

〒 910-8507 福井市文京 3-9-1 福井大学教育地域科学部

### I. はじめに

ヤシャゲンゴロウ *Acilius kishii* NAKANE, 1963 は、世界で南越前町 (旧今庄町) の夜叉が池のみに生息するゲンゴロウである。種の保存法によって、採集行為は禁止され、厳重に保護されているが、近年、その個体数は減少傾向にある。筆者は、2004年度からコドラート法を主な手法とする、ヤシャゲンゴロウの個体数調査を継続的に行っている。これまでの結果は、保科&井上 (2005; 2006), 保科 (2006; 2007; 2008) で報告済みである。2008年度の調査結果について、例年通り、本稿にて報告することにした。

### II. 方法

調査方法は、保科 (2006; 2007; 2008) とほぼ同様なので割愛する。コドラートを池に設置する位置も、ほとんど変えていない。ミジンコ類の個体数調査をするための水の接取場所も、例年とほぼ同じ場所で行った。2008年度は、成虫の個体数調査日を10月3日の1回、ミジンコ類の個体数調査を、9月11日と同月24日の計2回行った。

### III. 結果

調査結果を表1と2に示す。イモリやモリアオガエルのオタマジャクシの個体数や、特定の地点での水深、池周辺の気温及び湿度、池の水温などのデータも採っているが、本稿では割愛している。

2008年度の調査結果は、2007年度のそれと比較して、成虫の個体数が増加傾向にあることを示した。2007年9月12日の調査結果では、1 m<sup>2</sup>あたり0.73頭であったが (保科, 2008), 2008年10月3日の結果では、同面積あたり0.95頭となった (表1)。なお、池の水4リットルあたりのミジンコ類の個体数については、9月11日が40匹、9月24日が7匹と、両者で差が出た (表2)。2007年9月12日の調査では、4匹捕獲されているので、11日の結果からは2008年度のミジンコ類の個体数は、2007年度と比べて、大きく増えた印象があるが、24日のデータと比較すると、大差がないこととなった。保科&井上 (2005: 2006) の計算方法で、ヤシャゲンゴロウの総個体数を推定し、ある程度、幅を持たせた形で表記すると、約600~800頭という結果になった。

表1 調査地点ごとのゲンゴロウの成虫の個体数

(10月3日)

調査地点	1回目	2回目
①	0	0
②	0	0
③	1	0
④	0	0
⑤	0	2
⑥	0	1
⑦	2	1
⑧	0	1
⑨	0	1
⑩	0	0
⑪	0	0
⑫	0	0
⑬	0	1
⑭	1	2
⑮	1	10
⑯	2	2
⑰	0	0
⑱	1	0
⑲	2	2
⑳	2	3

表2 調査日別の水4リットル中のミジンコ類の個体数

9月11日	40
9月24日	7

うである。だが、ヤシャゲンゴロウの保護は、あくまで夜叉が池に生息する自然個体群の保全が第一であり、今後とも夜叉が池での継続的なモニタリング調査が必要である。

ミジンコ類に関しては、2008年度は、2日間に分けて9月のデータを取った。9月11日が40匹、9月24日が7匹と差が出たのは、9月下旬になって池のミジンコ類が減少したと言うより、計測日の照度、気温、水温などの自然条件や、サンプル採取技術の問題に帰因するのではないと思われる。よって、この数字だけで、正確な考察は困難であるが、2005年度時に比べて、池のミジンコ類の個体数が、著しく激減していることは確かである。また、今後のヤシャゲンゴロウの幼虫の生存率や、繁殖率、羽化率などに対して、重要なファクターとなって影響を与えていだろう。

## IV. 考察

保科&井上(2005; 2006)で述べたように、コドラートを用いたヤシャゲンゴロウの個体数調査は、精度の面で相当問題があることは言うまでもない。だが、ヤシャゲンゴロウは、種の保存法の適用種と言う法律によって、採集を禁止されている以上、ベテルセン法やジョリー・セイバー法など方法による個体数推定は不可能である。また、現在、夜叉が池は、ボランティアによるパトロール隊の方々、登山客に対してマナー向上を熱心に説かれている。よって、仮に、環境省よりの許可を得たとしても、いくら調査のためとはいえ、登山客の前での目立つ行為は、なるべく慎まなければならないのが現状である。したがって、当分は、コドラート法による大雑把な個体数推定の継続は、やむをえないと考える。

2007年からのヤシャゲンゴロウの個体数の回復傾向が、2008年度も続いたことは、本種の保全上、明るい兆しといえる。絶滅危惧の状態を脱したわけではないが、2007年度に始まった本種の人工増殖は、2009年度は、成虫の羽化数、生存率とも前年を大きく上回っているよ

## V. 引用文献

- 保科英人, 2006. 2005年度におけるヤシャゲンゴロウの生息状況について. 日本海地域の自然と環境, (13): 1-6.  
 保科英人, 2007. 2006年度におけるヤシャゲンゴロウの生息状況について. 福井大学教育地域科学部紀要第II部自然科学(生物編), (58): 11-15.  
 保科英人, 2008. 2007年度におけるヤシャゲンゴロウの生息状況について. 日本海地域の自然と環境, (15): 9-11.  
 保科英人&井上友美, 2005. ヤシャゲンゴロウの現状(I). 甲虫ニュース, (152): 13-21.  
 保科英人&井上友美, 2006. ヤシャゲンゴロウの現状(II). 甲虫ニュース, (153): 11-19.



## コガタノゲンゴロウの福井県からの記録

保科英人

〒 910-8507 福井市文京 3-9-1 福井大学教育地域科学部

*Cybister tripunctatus orientalis* GSCHWENDTNER, 1931 コガタノゲンゴロウは、琉球列島や西南日本では、珍品と呼ばれるほどのものではないが（森&北山, 1993）、日本列島を東に向かうほど、産地は局地的となり、個体数は非常に少なくなる。現在、福井県では、県域絶滅危惧 I 類に分類される希少種としての扱いを受けている（福井県福祉環境部自然保護課, 2002）。福井県内のコガタノゲンゴロウは、1950年代に小浜市で捕獲された後、久しく記録がなかったが（福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 1985）、1993年敦賀市中池見湿原で、1メスが県内で約40年ぶりに採集された（福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 1996; 佐々治&岸本, 1996; 野原&河野編, 2003）。

その後、コガタノゲンゴロウの記録は、再び福井県内から途絶えたが、筆者は、2008年11月1日、福井県嶺北にて1メスを捕獲したので、本稿にて報告することにした。

保科ら(2007)で述べたように、現在の敦賀市中池見湿原は、水生昆虫類の多様性が著しく損なわれており、県内ではまだまだ普通種の名ミガムシさえ、同湿地では捕獲するのが困難な状態である。滋賀県立琵琶湖博物館の八尋克郎博士によると、滋賀県内のコガタノゲンゴロウの繁殖が確認されていたため池は、15~20年くらい前に失われ、現在は、滋賀県内に安定した産地はないらしい。15~20年くらい前と言え、ちょうど中池見湿原で記録された時期にはほぼ該当するので、この時の個体は滋賀方面から飛来した可能性もある。実際、福井県福祉環境部自然保護課(2002)は、1993年中池見湿原における本種の記録は「偶産の可能性が高い」としている。

2008年嶺北で捕れたコガタノゲンゴロウについて、大型ゲンゴロウ類の生態に詳しい西原昇吾博士（東京大学大学院）と意見交換をする機会が先日あったが、今のところ、福井県周辺で本種の安定的な生息地はなく、今回の記録も偶産である可能性が高い。しかし、本年、同じ場所で、本種が捕れたとの情報があり、定着している可能性もゼロではない。いずれにせよ、本州中部では、本種は希少種であるので、取りあえずは、本稿では、具体的な採集地は伏せておくことにしたい。過剰反応のように思われるかもしれないが、福井県内のナミゲンゴロウには、現在少なからず採集圧がかかっている。筆者は、福井県のナミゲンゴロウの将来に相当悲観的である。

末筆ながら、本稿を執筆するにあたり、貴重な助言をくださった、西原昇吾と八尋克郎の両博士に厚く御礼申し上げる。

## 引用文献

- 福井県福祉環境部自然保護課, 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生動物. 福井県福祉環境部自然保護課. 243 pp.
- 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 1985. 福井県昆虫目録. 福井県. 404 pp.
- 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 1996. 福井県昆虫目録 (第2版). 福井県県民生活部自然保護課. 556 pp.
- 保科英人&魚見陽香&寺嶋美乃&山田千恵, 2007. 敦賀市中池見湿原に生息する水生昆虫類の現状. 日本海地域の自然と環境, (14): 1-16.
- 森正人&北山昭, 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版. 217 pp.
- 野原精一&河野昭一編, 2003. 福井県敦賀市中池見湿地総合学術調査報告. 独立行政法人国立環境研究所. 387 pp.
- 佐々治寛之&岸本修, 1996. 福井県敦賀市中池見湿地の昆虫相とその自然環境保全の提言. 付 テントウムシ科昆虫の新種記載と生活史. 日本海地域の自然と環境, (3): 15-36.



鈴鹿川河川林のマルテントウダマシ亜科  
Records of subfamily Anamorphinae (Endomychidae)  
from Suzuka-gawa river river forest

By Nobuyuki NARUKAWA

生川展行

〒513-0015 三重県鈴鹿市木田町 2399

マルテントウダマシ亜科は、日本から6属16種が記録されているが、一部の種を除いて一度に多数の個体が得られることは稀であり、また同一場所で複数の種が得られた報告は、ほとんど見当たらないようである。

筆者は、2008年6月に三重県鈴鹿市甲斐町の鈴鹿川河川林(写真1)で、見慣れないマルテントウダマシをハチクの生葉から1頭採集し、その後追加個体を得るため、再度同じ場所で採集を行ったが、追加個体は得られなかった。秋になって、当初調査を行った場所より下流の河川林で調査を行ったところ、追加個体を得ることができたため、継続的に調査を行った結果、3種類のマルテントウダマシを得ることができたので、その結果を報告しておく。なお、ご多忙のところ標本写真を撮影していただいた稲垣政志氏に厚く御礼申し上げる。

1. 調査の概要

調査を行った場所は、鈴鹿市内を流れる鈴鹿川下流の右岸にあるハチク、メダケを中心とした河川林で、サイクリンロードに沿った河川林林縁部の枯れたメダケ、ハチクのピーティングにより調査を行った。

2. 調査結果

今回鈴鹿川のハチク、メダケを中心とした河川林で得たマルテントウダマシは、以下の3種類であったが、種類によって得られた環境に相違がみられたので、生息環境を含めて調査結果を報告しておく。

*Mychothenus asiaticus* SASAJI ダエンマルテントウダマシ (写真2)

採集記録：三重県鈴鹿市甲斐町鈴鹿川河川林、15-IX-2008, 2 exs., 生川；27-IX-2008, 2 exs., 生川；23-IX-2009, 3 exs., 生川。

福井県雄島と福岡県英彦山で得られた標本を基に、1978年に新種記載された種で、その後青森県、三重県、宮崎県でも記録されているが、青森県の記録を除いて記録された個体数は少ない。鈴鹿川河川林では、細い立枯れのメダケから採集したが、個体数は少なかった。

*Bystodes kidoi* SASAJI キドマルテントウダマシ (写真3)

採集記録：三重県鈴鹿市甲斐町鈴鹿川河川林、15-IX-2008, 1 ex., 生川；21-IX-2008, 1 ex., 生川；23-IX-2008, 2 exs., 生川；25-IX-2008, 11 exs., 生川；27-IX-2008, 1 ex., 生川；12-X-2008, 9 exs., 生川。

福岡県城山で得られた標本を基に、1990年に新種記載された種で、その後群馬県、岐阜県、三重県、大阪府、兵庫県、徳島県、トカラ列島(悪石島、中之島)で記録されている。三重県では四日市市西村町、鈴鹿市山本町、上野町、西條町・地子町金生水沼沢で記録されている。特に四日市市西村町では、1997年に朝明川河川敷のヨシ原で、地面に積もった枯れたヨシをふるいにかけて、多数の個体が採集された(生川, 1998)。主に枯れたヨシやの枯れたササ、イネ科植物などから得られている。今回鈴鹿川では、日陰にあった枯れたハチクのピーティングにより得た。なお、鈴鹿川河川敷では、大雨で流されてきて溜まった枯れたヨシからも採集している。

*Bystodes flavoapicalis* SASAJI キモンマルテントウダマシ (写真4)

採集記録：三重県鈴鹿市甲斐町鈴鹿川河川林、15-IX-2008, 5 exs., 生川；23-IX-2008,

3 exs., 生川; 25-IX-2008, 4 exs., 生川; 27-IX-2008, 8 exs., 生川; 12-X-2008, 40 exs., 生川; 2-V-2009, 1 ex., 生川; 23-IX-2009, 11 exs., 生川.

キモンマルテントウダマシは、沖縄県那覇市末吉で得られた標本を基に、1990年に新種記載された種で、その後は鹿児島県(齋藤, 1991)で記録されていただけであったが、近年三重県(樋尾ほか, 2008)と、東京都八丈島から川畑(2009)により記録された。今回、筆者は、伐採されて古くなったメダケのピーティングにより多数の個体を採集した。体長約 1.5 mm の小さい種であるが、ピーティングネットに落ちると、上翅後半の黄褐色の斑紋がよく目立ち、すぐに本種と確認できた。また、他のマルテントウダマシと違って、すぐに飛び立つ行動が見られた。9月に採集した個体の中には未熟個体が含まれていた。川畑(2009)では、冬季に得られているため、秋に羽化した個体は成虫越冬するものと思われる。

なお、色彩的によく似た *Dexialia spectabilis* SASAJI アトモンマルガタテントウダマシとは、アトモンマルガタテントウダマシの触角が9節で、キモンマルテントウダマシの触角が10節であることで容易に区別できる。

<文 献>

樋尾信也・篠木善重・尾崎美香・市橋 甫・前川和則・生川展行, 2008. 鈴鹿川流域の甲虫類. 鈴鹿川流域自然環境調査報告書: 70-106.  
 川畑喜照, 2009. 伊豆諸島八丈島の甲虫 V. 神奈川虫報, (168): 21-29.  
 生川展行, 1998. キドマルテントウダマシの多数採集例. ねじればね, (79): 8-9.  
 生川展行, 2003. 三重県のマルテントウダマシ科. 三重生物, (53): 15-18.  
 生川展行, 2008. キドマルテントウダマシの採集記録. ねじればね, (123): 7-8.  
 SASAJI, H., 1990. The family Mychothenidae of Japan (Coleoptera). Esakia, Special Issue, (1): 65-75.  
 齋藤昌弘, 1991. 大隈半島南部の甲虫3種. 月刊むし, (250): 14-15.



写真1 (左上)  
採集場所

写真2 (右上)  
ダエンマルテントウダマシ

写真3 (左下)  
キドマルテントウダマシ

写真4 (右下)  
キモンマルテントウダマシ



## 岡山県でエヒメアリヅカムシを採集

藤谷美文

〒701-1143 岡山市北区吉宗 137

筆者はすでに鳥取県から本州初記録の報告を行ったが（藤谷，2008），岡山県からもエヒメアリヅカムシ *Himepion cyathicornis* NOMURA et HLÁVAC, 2003 を下記のように採集したので報告する。

2 ♀♀，岡山県真庭市蒜山下和 山乗山，27. IX. 2009. 筆者採集，野村周平保管。

本種は野村・山本（2000）が小田深山から「Tyrini 族 *Tyrina* 亜属の未記載属の一種」として報告し，その後，Somatipionina セダカアリヅカムシ亜族の新属新種として記載された種（NOMURA & HLÁVAC, 2003）で，触角が玉しゃくしのような特異な形状をしており容易に他種と区別できる（図1）。採集記録は極めて少なく，今まで愛媛県，鳥取県から記録された10頭が知られているのみであった。本種はブナ帯やブナ・ミズナラ帯に生息する種のように（図2），多くはブナの樹洞内から採集されており，筆者は樹洞周辺のリターや樹洞底部のフレークからは採集した経験がない。樹洞からの採集はブナの樹洞底部に白布を敷き，薬剤噴霧により樹洞壁面から落ちてくる本種を受けて行った。ホロタイプはブナの樹洞から採集されており，鳥取県江府町木谷沢や今回もブナの樹洞（図3）から採集されたことから，本種が樹洞性のアリヅカムシであると考えて間違いのないと思われる。

薬剤噴霧による樹洞内の採集方法については問題点を指摘するむきもあるかと聞き及んでいるが，本種のように微小な種はこのような方法以外採集手段がないように思われる。筆者は残留性を考慮し，水性の殺虫剤を使用している。

末尾ながら，同定の労を賜り，報告にあたって本種についてご教示いただいた野村周平博士に厚くお礼申し上げます。

## ＜参考文献＞

藤谷美文，2008. エヒメアリヅカムシ本州の記録. ハネカクシ談話会ニュース，(35): 3.

野村周平・山本栄治，2000. 小田深山とその周辺のアリヅカムシ相. 小田深山の自然，II，愛媛県小田町編，pp. 325-351.



図1（左）エヒメアリヅカムシ 図2（右）生息環境





図3 ブナの樹洞

NOMURA, S. & P. HLÁVAČ, 2003. *Himepion cyathicornis* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae), a new genus and species of the Somatipionina from Shikoku, Japan. *Elytra, Tokyo*, 31: 159-164.

## サシゲチビタマムシを北限記録となる石川県小松市那谷寺で採集

福富宏和

〒924-0867 石川県白山市茶屋 2-39 T・テラスハウス 6号室

サシゲチビタマムシ *Trachys robusta* E. SAUNDERS, 1873 は、本州、四国、九州、伊豆諸島、対馬の暖地性照葉樹林を中心に分布しており、今までの北限は福井市二上（佐々治ら, 1999）となっている。今回、那谷寺住職、木崎氏のご配慮のもと、調査する機会を得て、社叢林を調査した結果、下記のように本種成虫を採集したので報告する。

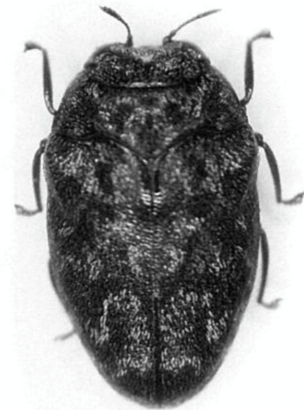
サシゲチビタマムシ *Trachys robusta* E. SAUNDERS, 1873 (写真)  
5♂, 3♀, 石川県小松市那谷寺, 19. VIII. 2009, 福富採集・保管

本種は、林内にはえているスダジイの高さ3 m 前後の葉上より得られた。葉には独特の成虫による食痕があり、本種が生息しているかのひとつの手がかりとなる。石川県内では、他にも暖地性照葉樹林が点在しており、本種が分布しているか調査する必要がある。

文末ながら、那谷寺における昆虫調査を快諾いただいた那谷寺住職の木崎馨山氏、採集に同行していただいた石川県ふれあい昆虫館の富沢章氏、石川県小松市の飯田昭氏にお礼申し上げる。

### 〈参考文献〉

佐々治寛ら, 1999. 昆虫類. 福井県のすぐれた自然 動物編: 162-441. 福井県.



サシゲチビタマムシ

## ヒメナカボソタマムシ屋久・奄美亜種の奄美大島における追加記録

福富宏和

〒924-0867 石川県白山市茶屋 2-39 T・テラスハウス6号室

稲田悟司

〒901-2134 沖縄県浦添市港川 1-22-1 A-113

ヒメナカボソタマムシ *Coraebus iriei* KUROSAWA, 1985 は西表島, 石垣島, 沖縄島, 奄美大島および屋久島から記録がある。その中で, 奄美大島と屋久島に産する個体は, 上翅に明瞭な毛斑が現れることなどから, 黒澤により屋久・奄美亜種 *C. i. yoshimotoi* として, 記載されている (KUROSAWA, 1985)。

このヒメナカボソタマムシ屋久・奄美亜種は原記載以来採集記録が無かったが, 下記のように採集することができたので報告する。

ヒメナカボソタマムシ屋久・奄美亜種 *Coraebus iriei yoshimotoi* KUROSAWA, 1985 (写真1)

1♂1♀, 鹿児島県奄美市中央林道, 30. VI. 2009, 福富採集・保管; 2♀, 同所, 1. VII. 2009, 福富採集・保管; 1 ex., 同所, 3. VII. 2009, 稲田採集・保管

福富が採集した個体は, 林道脇に生えているイスノキ (写真2) の葉のスイーピングにて成虫を得た。また, 稲田が採集した個体は, 林道空間に張り出したイジュの花のスイーピングにて成虫を得ることができ, この個体の口器には花粉が付着していた。

## 〈参考文献〉

AKIYAMA, K. & S. OHMOMO, 1997. A check list of the Japanese Buprestidae. Gekkann-Mushi (Suppl.) 1. 68pp.

KUROSAWA, Y., 1985. Notes on the Oriental species of the coleopterous family Buprestidae (IV). Bull. natn. Sci. Mus., Tokyo, A11: 141-170.



写真1 (左) ヒメナカボソタマムシ 写真2 (右) イスノキ



## こうひいぶれいく (話のたね)

福井県内の外来魚駆除に関する一考察  
～バスとギルの駆除は、ゲンゴロウ類の復活につながるか～

保科英人・小西洋祐

〒 910-8507 福井市文京 3-9-1 福井大学教育地域科学部

ブラックバスやブルーギルによって、ため池に生息するゲンゴロウやガムシ類がしばしば壊滅的打撃を受けるのは、今更言うまでもないだろう。こういった外来魚やアメリカザリガニの駆除によるゲンゴロウ類の保全活動に関しては、西原昇吾氏の数々の著作に譲ろう(例えば、西原, 2008 など)。本稿は、甲虫とは直接関係がない話題であるが、筆者らは、近年福井県が行っている外来魚駆除事業に数々の問題点を見いだしたので、話題提供することにした。ため池に侵入した外来種は、そこに生息する水生甲虫類の保全する上で、無視できないテーマであり、福井県における事例が、何らかの問題提起となれば、幸いである。

福井県内に生息する淡水魚の中で、外来生物法が定める特定外来生物に指定されているのは、オオクチバスとブルーギルの2種である(最近、コクチバスが県内で見つかったとの新聞報道がなされた)。筆者の1人保科は、保科&山内(2006)と、保科ら(2008)で、オオクチバスとブルーギルの県内における分布状況を概説した。

近年、福井県内のため池で、行政指導の水抜きによる外来魚駆除事業が行われている。保科&山内(2006)では、そのうち、あわら市後山の中山溜池と、越前市黒川町の森永ダムの事例を紹介した。福井県のあるバス釣り愛好家が運営する掲示板を見ると、未だに、「オオクチバスが駆除されるのは、釣り人がゴミを残し、地元から嫌われたからだ。バサーならば、マナーを守れ」との見解に沿った書き込みが後を絶たない。行政は、「外来魚駆除は里地の生物多様性再生のため」と相当口酸っぱく言っていて、県内の外来魚の駆除は、釣り人のマナー問題とは無関係なのだが、バス釣り愛好家には、「バスは害魚」との苦言は届かないのか、意識的に頭に入れようとしめないのか、この掲示板内では、オオクチバスが生態系にもたらす影響は認められないような書きぶりである。

オオクチバスやブルーギルの駆除が進んでいるのは、生物多様性回復のためには、本来なら無条件で喜ぶべき事態ではあるが、筆者らは、県内のいくつかの駆除事業に立ち会って、少なからぬ問題点を見いだした。本稿では、それについて考察を試みたい。

## 1) あわら市後山の中山溜池の事例

2006年、あわら市後山の中山溜池で、水抜きによるオオクチバスの駆除が行われた。2年後の2008年6月、9月、11月に、筆者らはこの池の現状を把握するため、捕獲カゴ(ベイトはフナ釣り用の練り餌と煮干し)を数時間池に沈めた。その結果、アメリカザリガニとウシガエルの幼生が多数捕獲された。近所の農家にヒヤリング調査を行うと、アメリカザリガニとウシガエルは、2006年よりも相当前から生息していたことがわかった。泥の中に潜ることができるアメリカザリガニは、水抜きでは、根絶できないのは明らかである。一方、関係機関は、オオクチバスが多く生息していた2006年の段階では、アメリカザリガニとウシガエルの存在をほとんど念頭に置いていなかった。そして、水抜きによって、オオクチバスと言う捕食圧がなくなり、その結果、アメリカザリガニとウシガエルは、数を増やしたのであろう。中山溜池は、かつては、休日には、バス釣り愛好家が集まる場所であったのが、今はザリガニとウシガエルの巣になった、と言う結果になっている。

アメリカザリガニの個体数を抑制していたからと言って、オオクチバスの存在を肯定できるもの

でないことは最初に言うておく。しかし、中山溜池の駆除事業の問題点は、ようは、アメリカザリガニとウシガエルがこの池に昔から生息していることを、多くの地元の農家は知っていたのに、駆除事業実施側（行政+有志）はそれを把握せずに、水抜きを行ってしまったことにある。オオクチバスを駆除して、生物多様性の再生を効果的に進めたいのであれば、他の外来種の分布状況を正確に把握した後、ため池の選定を行う必要がある。

## 2) あわら市東山の沢溜池の事例

2008年10月19日、あわら市東山の沢溜池で、水抜きによるオオクチバスとブルーギルの駆除が行われた。この事業では、複数の問題点が浮き彫りとなったので、以下、4つの項目別に分けて述べることにしたい。

### ① 沢溜池と用水路で繋がった別のため池との関係

沢溜池が位置する谷の奥部に、沢溜池より高位に位置する別のため池があり、そこにはオオクチバスが生息している（保科&山内, 2006）。そして、この両ため池は、用水路で繋がっている。常に水が流れているわけではないので、陸水性動物の往来は常時可能ではないが、大雨等で増水すると、奥のため池から、オオクチバスの稚魚が流出し、駆除後の沢溜池に再侵入する可能性がある。2008年の駆除事業実施側（行政+有志）は、この事実を把握しないまま（ここにバスがいることは論文データになっているのだが）、水抜きを行った。もし、この地域で、オオクチバスを駆除したいのであれば、より奥に位置するため池を先に選定すべきであった。

### ② 水抜きによる外来魚の流出防止柵の不完全さ

駆除当日の水を抜く時の水量が大きく、水は対外来魚用の流出防止柵を乗り越えて放水されていた。当日、目で見てもブルーギルの稚魚が、池外に流出していることは明らかであったが、後日調査に行くと、沢溜池のすぐ下の用水路で、やはり生きた状態のブルーギルの稚魚を捕獲することができた。流出防止用の柵が、完全に機能していなかったことは明白である。

### ③ ヘラブナとコイと言う“国内”外来魚

筆者らは、淡水魚の専門家でも何でもないのに、図鑑に掲載されている程度の知見の披露になってしまうことをお許し願いたい。コイは、川那部ら編（1989）によると、野生型の現生のコイは、関東平野、琵琶湖水系、岡山平野、四国の四万十川で確認されていて、第三紀層の化石に関しては、福井県からも発見されている。化石が見つかる以上、福井県のコイは100%外来種とは言い切れないが、現在の福井県内のため池に生息するコイが放流された個体であることは明らかである。ヘラブナ（正式和名はゲンゴロウブナ）は、琵琶湖原産のフナであるから、福井県から見れば、“国内”外来魚であることは言うまでもない。

あわら市の沢溜池には、元々コイとヘラブナの両者が放流されていた。コイはいざしらず、ヘラブナは大事にされていて、岸にヘラブナ釣り用の足場が設けられているほどである。つまり、地元は、ヘラブナは有用な“在来魚”であると認識しており、地元で、多少なりともヒヤリング調査をすれば、ヘラブナを駆除の対象とできないことは、簡単にわかったはずである。実際、駆除事業の開催を通知する地元設置の看板には、「在来魚は、後で再放流します」と書いてあった。この在来魚には、コイとヘラブナが含まれるのは言うまでもない。事実、ヘラブナとコイは、後日、沢溜池に再放流されたようである。



移入されたヘラブナが生態系に与える影響は、オオクチバスほどではないとの見方があるらしい。一方、コイは、ヘラブナよりも、生態系攪乱要素としての位置づけが大きいとも言われている。いずれにせよ、「本来の生物多様性を回復させる」との看板を掲げた駆除事業を行う場合は、ヘラブナとコイは扱いに困る存在である。なぜなら、コイとヘラブナを外来魚として、駆除することは、現在のところ、国民的合意が得られているとは思えないからである。

バス釣り愛好家は、オオクチバス害魚論に対して、「ヘラブナは、ほとんどの地域では外来魚であるのに、なぜバスだけが害魚扱いを受けるのか」と言う反論を口にする。これが、何ら科学的説得力を持たないことは言うまでもないが、税金を多少なりとも投じた駆除事業で、「ヘラブナは良いが、オオクチバスはNG」と言う行政のダブルスタンダードは、バス釣り愛好家側につけ込まれかねない爆弾となりうる。バサーが残すゴミに悩まされている農家が、自分が所有するため池の水を個人的に抜いて、バスを駆除する一方、ヘラブナを後で池に戻す場合は、誰も文句を言うことはできない。個人の勝手である。だが、行政が大なり小なり関与した外来魚駆除事業で、「ヘラブナとコイは在来魚だから、再放流します」との地元の主張を黙認してしまうと、「行政はヘラブナとコイを在来魚だと思っている」とバサーから言われても否定できない。清水(2003)やバス愛好家たちの掲示板を見ると、彼らが「バサー＝自然を知っている。バス駆除論者＝自然の実体や外来種が何たるかを知らずに、マスコミに踊らされている無知な連中」との妄信に取り付かれていることがわかるが、ヘラブナとコイの再放流の黙認は、バサー側に攻撃のための門戸を開くようなものである。

ただし、3)で後述するように、福井県での駆除事業は、「駆除したい」と言う地元の申請に対して行政側が補助を出していると言うより、行政側が地元をお願いしてやってもらっていると言うのが実情だ。つまり、「コイは戻したい」との地元の要望を無視するのは実際問題不可能である。

となると、解決策は一つしかない。ヘラブナとコイが大事にされているため池では、当面は駆除事業をしない方が賢明だ。現在、福井県内で行われるため池での外来魚駆除は、予算やマンパワーの関係上、1年に2回程度しか行うことができない。ならば、「ヘラブナ、コイ、オオクチバスは共に駆除」と言う地元の合意が得られないため池よりも、ヘラブナとコイが生息していない池、ないしは、オオクチバス共々、これらを駆除しても異論が出ない地域の池をより優先して、駆除事業を行った方が効率が良い。ちなみに、2005年に越前市黒川町のダムで行われたブラックバス駆除事業では、コイとヘラブナも少なからず捕獲されたが、地元がこれらの魚に執着しなかったため、捕獲された魚は処分されるか、人の完全管理下にある別の環境で飼育されることとなった。つまり、再放流は行われなかったのである。

#### ④カムルチー (=雷魚) の取り扱い

福井県内のカムルチー (=雷魚) は、カマボコの材料とすることを目的として、北潟湖に導入されたのが最初と言われている(加藤, 1998)。沢溜池では、当日の水抜きによって、成魚が捕獲された。カムルチーは要注意外来生物であり、当然ながら、オオクチバス・ブルーギル共々駆除されるべき存在であるが、カムルチー愛好家を名乗る人物が現場に現れて、生きたカムルチーを持ち去ってしまったと言う。行政関係者はカムルチーの“お持ち帰り”を精一杯阻止したらしいが、この人物は外来生物法に多少知識があり、「雷魚は特定外来生物ではないから問題ないはずだ!!」と強硬に主張したため、行政側はやむをえずカムルチーを手渡したらしい。筆者らがその後聞いた話では、この人物は持ち帰ったカムルチーを飼育したものの、すぐに死んでしまったらしく(ブログ?による自己申告だったと聞く)、野外に放流されることはなかったと言うが、実際はどんなもんだか。この話が大きな問題点を含んでいることは言うまでもない。カムルチーが沢溜池から見つかることは、行政も地元もあらかじめ想定していなかったようだが、今後は、このような可能性をあらかじめ認識しておいて、対策を考えておく必要がある。

### 3) 外来魚駆除事業の対象となるため池の選定法

これが、福井県内の外来魚駆除事業の最大の問題点かもしれないが、詳細な内情を暴露するのは、少々憚られるので、ぼかして書かせていただく。駆除事業に何らかの県の税金が投じられるのは言うまでもないが、それゆえに、対象となるため池の選定方法に、ある種の制限がかかる。福井県の場合では、まず、1) 地元が駆除を積極的に行う意志があるか、2) 自然観察会や環境保全活動を行っている受け皿となる住民団体があるか、3) その団体は、近年活動実績があるか、の3点を共にクリアしなければならない。これらを全てクリアするのは、なかなか高いハードルである。特に水辺の生き物に関心を持っていない地元住民のホンネとすれば、釣り人が自分たちに多大な迷惑をかけているのであればともかく、そうでなければ、ため池にブラックバスがいろいろいるが、どうでもよいことだろう。たいした小遣いも出ないのに、休日の朝っぱらから、ため池の水を抜いて、泥だらけになって、魚を網ですくうなんざウザイと考える、一般市民を誰が非難できようか。住民団体の結成および活動実績もまた然りで、行政側が住民活動を強制することなんてできやしない。筆者らは、県庁から「どこで外来魚駆除をやったらいいだろうか」と事前相談を受け、ならば、ナミゲンゴロウや希少トンボ類の生息状況をふまえて、「ブラックバスを駆除するなら、この池がよいのではないか。もしくは、あそこでも良い」といろいろ提案しても、「地元がやる気なし」「受け入れ団体が無い」等の理由でことごとく却下された。交渉に当たった県役人には責任はなく、責めても仕方がないのだが、結局、外来魚やアメリカザリガニを駆除しても、里地の希少生物および生物多様性の復活に、多大な貢献が期待しえない、平たく言ってしまうと、どうでもいいため池ばかりで、外来種の駆除が行われることがしばしばである。

以上を総括すると、過去に福井県で行われたいくつかの外来魚駆除事業は、大きな問題点を含有している。お粗末と言っても差し支えない事項もある。最近では、駆除事業の当日は、市長や多数のマスコミ関係者が押し寄せるなど、人が集まるお祭りのイベントとなってしまう（ちなみに、この手のイベントに必ず顔を出す市長は、挨拶をすませると、手を泥で汚すこと一切なく、いつもさっさと帰ってしまうから、筆者は一種の選挙活動ではないかと邪推している）。「なぜ、このため池で駆除をするか」「駆除後どのように生物多様性を回復させるか」「駆除後のモニタリング調査は、誰がどのように実施するか」などが何も検討されず、駆除自体が目的化してしまっている。沼溜池での駆除事業の“考えられない”ミスは、「なぜ駆除をするか」と言うビジョンが欠けてしまっていることの象徴と言ってよいだろう。少ない予算で、県内の外来魚の駆除を進めていく以上、より効果的な方法で、自然再生が進んでいくことを望まざるにはいられない。

余談ながら、前述の福井県のバス釣り愛好家の掲示板には、「川であれば、水抜き駆除のしようがないから、オオクチバスをどんどん放流すればよい」と言う犯罪を煽るような書き込みがある。秋月(2001)が主張する「バス釣りそのものの法的規制」は、現段階では実現性はないが、密放流が今後も続くようなら、地域限定で、そのような法的対策も検討課題とすべきかもしれない。

末筆ながら、本稿を執筆するにあたり、貴重な助言をくださった、松田隆喜氏に厚く御礼申し上げます。

#### <引用文献>

- 秋月岩魚, 2001. ブラックバスがメダカを食う. 宝島文庫社. 252 pp.
- 保科英人&山内愛香, 2006. 福井県内のため池におけるブラックバスとブルーギルの分布に関する知見. 福井市自然史博物館研究報告, (53): 101-116.
- 保科英人&中本新之助&松田智子, 2008. 福井県内のブラックバスおよびブルーギルの分布に関する追加知見. 日本海地域の自然と環境, (15): 13-16.
- 加藤文男, 1998. 福井県の淡水魚. p. 125-203. みどりのデータバンク付属資料第2回・福井県の陸水生物. 福井県県民生活部自然保護課. 203 pp.
- 川那部浩哉&水野信彦&細谷和海編・監修, 1989. 日本の淡水魚. 山と溪谷社. 719 pp.



西原昇吾, 2008. よみがえれゲンゴロウの里. 童心社. 47 pp.

清水國明, 2003. 釣戦記. つり人社. 255 pp.

## 書籍紹介

### 「ホソカタムシの誘惑—日本産ホソカタムシ全種の図説—」

青木淳一著 東海大学出版発行 2009年10月発売 定価2940円(税込)

11月中旬、著者から「ホソカタムシの誘惑」という本が送られてきた。挨拶状には「学術書なのか、エッセイ集なのか不明の書物になってしまった」と書いている。

著者はダニの世界的な権威者として知られる青木淳一博士である。元々は甲虫が好きで、学生時代は一時ホソカタムシに熱中していた。しかし、何故、ダニに魅せられたか知らないが、大学の卒業論文のテーマはササラダニ類の研究になった。その後は周知のとおり、ダニ一筋の人生を歩んだ。停年間近には横浜国立大学の教授と神奈川県立生命の星・地球博物館の館長を兼任され、やがて停年退職されると、かすかに火だねがあったホソカタムシの情熱がめらめらと燃え上がったのである。そして、何が何でもホソカタムシの記載をしたいと言いだし、文献集めから採集と私もいろいろとお手伝いした。もうすぐ後期高齢者になるというのに、その情熱と執念と更に体力、気力は多くの人を驚かせた。ダニで全国をくまなく調査した地域を再びホソカタムシの採集に歩き回っている。この4年間には多くの報文の発表と記載をした。その集大成の一部が本書なのであろう。ササラダニの新種記載は450種にもなったそうで、その時のノウハウがホソカタムシに生かされていることは言うまでもない。

さて、どんな本かわくわくしながら紐といてみた。1章から「ホソカタムシに関するQ&A」とユニークな序章で始まる。2章は「ホソカタムシの魅力」、恰好のよさとして細くて堅い体、見事な彫刻、落ち着いた行動、枯木に潜む小さな妖精の化身と述べている。3章「ホソカタムシの研究法」では特に図の描き方が具体的に丁寧に書かれている。4章「採集日記から」は南九州、徳之島、石垣島、北大東島、種子島、小笠原などの成果を多数のカラー写真で表現している。5章「ホソカタムシ採りの達人達」では私のほか、田中勇、井上重紀、生川展行、岡田圭司の採集テクニックとその秘訣などを記述している。ここまではホソカタムシに傾注した経緯が読み取れる。6章からはまさに学術書で「日本産ホソカタムシ種名リスト」、7章「日本産ホソカタムシ図説」は日本産全種48種を1種に2ページを費やし、見事な精密画と詳しい解説、分布図をあげ、同定も充分可能になっている。なにしろ、5章までが76頁なのに、残りの6-7章で100頁以上も占めている。コラムもかなり専門的な記述で大変参考になる。

極めてマニアックな本で、一般的とは云えないが、本人が述べたとおり、エッセイ+学術書と云えよう。ホソカタムシの魅力と面白さをとことん突き詰めた究極的な内容である。甲虫に興味ある人は是非一読をお勧めしたい。いわゆる雑甲虫屋には必読の書である。

ホソカタムシの仲間はこの他にもいくつかの未記録種があり、10種ぐらいいは増えるかも知れない。それだけ採集が難しい奥の深い甲虫であり、魅力のあるグループである。

本書により、多くの人々がホソカタムシに誘惑され、ホソカタムシファンが増えることは必定であろう。

(平野幸彦)

## 日本甲虫学会会員の皆様へ

会員の皆様のご存じの通り、本会と、日本鞘翅学会との合併が決定しました。当然、両学会の英文誌および和文誌も、それぞれ1つに統一されます。それに伴いまして、本会の「ねじればね」の原稿につきましては、2010年6月30日到着分までは、2010年度内発行の「ねじればね」に原則掲載させていただく方針です。6月30日以降も投稿は受け付けますが、その原稿の量によっては、新学会で発行する和文誌にそれらを掲載させていただくこともありえます。その場合は、責任を持って、新和文誌の編集担当の方へ引き継ぎますが、新和文誌の投稿規定によっては、著者の方へ原稿の訂正をお願いすることが生じる可能性があることを含み置きください。

## 収支決算書

平成20年度（平成20年1月1日～同12月31日）

収入の部		支出の部	
年会費	2,122,000 円	印刷費	
バックナンバー代	34,000 円	昆虫学評論 62 (2), 63 (1)	1,027,950 円
別刷代および著者負担金	264,750 円	別刷代	154,350 円
		ねじればね (No.121 & 122)	180,600 円
前年度繰越金	1,199,495 円	会誌・会報郵送料	108,040 円
		別刷送料	16,070 円
		渉外費	75,050 円
		編集関係諸費	12,240 円
		例会・行事費補助	74,460 円
		庶務費	47,472 円
		次年度繰越金	1,924,013 円
計	3,620,245 円	計	3,620,245 円

## ねじればね 126号 Nejurebane No. 126

2009年12月15日発行 15. December 2009

発行者：日本甲虫学会（会長 大林延夫）The Japan Coleopterological Society

発行所：日本甲虫学会 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付

Entomological Laboratory, Osaka Museum of Natural History, Osaka, 546-0034, JAPAN

振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>

Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

編集：保科英人、伊藤建夫、谷角素彦

ねじればね原稿送付先（和文）：保科英人 〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学教育地域科学部

E-mail: hhoshina@f-edu.u-fukui.ac.jp (E-mailでの投稿を歓迎します)

入会および会費問合せ先：野村英世 〒590-0144 堺市赤坂台1-18-5 Tel. 0722-98-4066

(年会費 A会員 5,000円；B会員 6,000円)

昆虫学評論 原稿送付先（英文）：初宿成彦 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館・

昆虫研究室気付